

申どしの男のうたへる

野田寅太郎

自が身のいきどほろしくあるものかめどなくこゝにいきづきてをり
今日もまたおこたりいねて吾があれば鶺鴒來なきしまらくをるも
乏しらに吾らくらすも世のうごきたちまちひぐくなりはひにして

×

鋭聲とこゑはあれしかれど老けたり相みるとよそはぬ人はかなしきろかも
いらだちてもだをる君のちぎりすて破きすつる草のほひかなしも

×

愛宕なるみやまの宮のしづけきに初日のぼるらし雲あかりつゝ
遠山は陽はもいづらし山のみやの白はとたちてうすあかりすも
並び立つ群山ねろの雲あかり鴉むれとぶ雪ふり來らし
朝戸出に越えんとおもふ豊くにの富士のみ山のはだのしたしも
十方にいひどきわたる大づゝのこだまゆたけき春とはなれり